

博物館
topics

今回の企画展は、展示期間を2期に分け、若草の巻(1月6日(月)～2月5日(水))、紅梅の巻(2月7日(金)～3月12日(水))と題して二部作品の展示替えを行っています。紅梅の巻では、明治の女性たちを描いた『真美人』シリーズの中から、特に新しいファッションが描かれた作品を展示します。

『年の初めの錦絵展～琉球で見る江戸文化の華～』

明治期の女性の服装は和装が一般的ですが、舶来小物を組み合わせる和洋折衷なファッションが流行しました。『真美人』に描かれた和装姿の女性たちも、指輪やリボンなど西洋風の小物をさりげなく身につけています。指輪の流行は明治初期から始まり、『真美人』が描かれた明治30年頃には金やプラチナで細工された豪華なデザインが人気でした。珍しいものとしては、金歯も当時はファッションの一つで、裕福さを示すお洒落として、わざわざ健康な歯を抜いて金歯に変える人もいました。

ハイカラなファッションの代表格と言える、女学生のスタイルです。『真美人』に描かれた女学生は、深い曲線が特徴的な「令嬢形」と言われることもリボンやチェック柄のシャツも女学生らしいアイテムでした。『真美人』には様々な明治ならではのアイテムが描きこまれています。女性たちが楽しんだハイカラなお洒落をぜひご覧ください。

那覇市歴史博物館

那覇の歴史・文化を体験!

開館時間 10 時～ 19 時 木曜休館 ☎ 869-5266

東南アジア陶器が寄贈されました

「東南アジア」沖縄から近く歴史的にも深い交流がありましたが、なかなか知る機会が少ない地域です。東南アジアの陶器を中心に 56 点の海外陶磁器が上神亮治氏から那覇市立壺屋焼物博物館に寄贈されました。中国・ベトナム・タイ・クメール(カンボジア)・ミャンマーで作られた特徴的な陶磁器です。

たとえば丸く膨らんだ鳥形の褐釉鳥形壺はクメール陶器の特色が色濃く表現されています。寄贈者の上神氏からは暮らしの中で使われる日本産陶磁器、沖縄と関連が深い中国陶磁器など多数がすでに寄贈されています。今後、上神コレクションとして企画・常設展示で活用していく予定です。公開まで時間がかかりますが、しばらくお待ち下さい。

当館は空調設備取替え工事のため12月9日(月)から2月下旬にかけて休館を予定しております。なお、工事が完了次第開館いたします。ご了承ください。

壺屋焼物博物館

協働さん いらっしゃい!

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第35回 上原仙子さん(那覇市協働によるまちづくり推進協議会)

今回の協働大使は、協働によるまちづくりにがんばる市民、そして大使を応援する「まちづくり推進協議会」の事務局で働く上原仙子さんです。上原さんは、出身地である宇小緑の郷友会での仕事をきっかけに、深く地域と関わるようになり、より地元に着目を持つようになったそうです。仕事を通して、もっと地域を良くしたいと思う中、平成21年に市が主催する「那覇市民大学」の開講を知り、早速受講。続いて開催された「なは市民協働大学」にも参加し、ワークショップなどを重ねながら、まちづくりに学んできました。「まずは那覇市を知りたいという思いと、他の地域の方とも知り合うことができればと思ったのが動機」と当時の思いを話しました。「協働大学を通して、多くの人と交流ができ、ネットワークが広がったことは、自分にとってプラスになった」と語りました。

協働大使は、協働によるまちづくりに留まり、平成23年度に設立した「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」の事務局の仕事に携わることになった。それからは市全体を巻き込んだまちづくりに関わっています。昨年の11月には、協議会が主催となり、東日本大震災の被災地福島県いわき市に復興を願う「ていだいシーサー」の贈呈を行うなど、協議会の活動も広がりをみせてきました。「手探りの中、いろいろな事業を企画し、みなさんの出会いの場を増やしてきました。今はまだ、通過点。あちこちに「種」を蒔いていくことが私の役目」と話し、これまでの経験からその手応えも感じているようです。

現在545名の協働大使が多岐にわたり活躍されていますが、その活動を多くの市民に知ってもらうことを目的に「協働まつり なはふあめわ」が2月9日(日)にぶんかテンプス館で開催されます。「このイベントも出会いの場、つながりの場としての種まきだと思っています。ここから大人まで楽しめる企画を考えています。多くの市民に来ていただき、自分にもできる何かを見つけるきっかけにしたいと思っています」と笑顔でイベントをPRしてくれました。

一つ一つの点と点が繋がって、那覇の「輪」になっていく協働のまちづくりを目指す上原さん。コソコソを積み重ね「未来のなは」を築いています。

お問い合わせ まちづくり協働推進課 ☎ 861・3846

心通う、顔の見える地域を作りたい

「協働大使」は、協働によるまちづくりに留まり、平成23年度に設立した「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」の事務局の仕事に携わることになった。それからは市全体を巻き込んだまちづくりに関わっています。昨年の11月には、協議会が主催となり、東日本大震災の被災地福島県いわき市に復興を願う「ていだいシーサー」の贈呈を行うなど、協議会の活動も広がりをみせてきました。「手探りの中、いろいろな事業を企画し、みなさんの出会いの場を増やしてきました。今はまだ、通過点。あちこちに「種」を蒔いていくことが私の役目」と話し、これまでの経験からその手応えも感じているようです。

現在545名の協働大使が多岐にわたり活躍されていますが、その活動を多くの市民に知ってもらうことを目的に「協働まつり なはふあめわ」が2月9日(日)にぶんかテンプス館で開催されます。「このイベントも出会いの場、つながりの場としての種まきだと思っています。ここから大人まで楽しめる企画を考えています。多くの市民に来ていただき、自分にもできる何かを見つけるきっかけにしたいと思っています」と笑顔でイベントをPRしてくれました。

一つ一つの点と点が繋がって、那覇の「輪」になっていく協働のまちづくりを目指す上原さん。コソコソを積み重ね「未来のなは」を築いています。

お問い合わせ まちづくり協働推進課 ☎ 861・3846

歴史まわい

一八七一年(明治四)年末、宮古島年貢運搬船が那覇から戻る際に、清朝の勢力下にある台湾に漂着しました。その乗組員五十四人が、台湾原住民によって略奪・殺害されるという事件がおきます。日本は事件の責任を清に問いましたところ、台湾住民は化外の民で、その地域は清国の政教の及ばぬところだと回答を受けました。日本側は、清が責任回避の態度を取ったと理解し、報復の措置として一八七四年(明治七)年五月、台湾へ軍を派遣し、六月には台湾を制圧します。いわゆる台湾出兵です。台湾で殺害された乗組員の遺骨は、出兵した日本軍によって収集さ

那覇市指定史跡

「臺灣遭害者之墓」

一八七一年(明治四)年末、宮古島年貢運搬船が那覇から戻る際に、清朝の勢力下にある台湾に漂着しました。その乗組員五十四人が、台湾原住民によって略奪・殺害されるという事件がおきます。日本は事件の責任を清に問いましたところ、台湾住民は化外の民で、その地域は清国の政教の及ばぬところだと回答を受けました。日本側は、清が責任回避の態度を取ったと理解し、報復の措置として一八七四年(明治七)年五月、台湾へ軍を派遣し、六月には台湾を制圧します。いわゆる台湾出兵です。台湾で殺害された乗組員の遺骨は、出兵した日本軍によって収集さ

「臺灣遭害者之墓」は、波上護国寺前にあり、観覧は自由です。この機会にぜひご覧ください。

お問い合わせ 文化財課 ☎ 917・3501

うちなーぐちや あじくーたー

出演 那覇市役所職員2人

お問い合わせ 那覇市文化協会うちなーぐち部会 ☎ 909・4347・8798

「キー」は毛、「プリ」は多く集まっている状態。「グチャー」は立つの変化した言い方で、「キープリグチャー」とも言います。怖いものや気味悪いものを見た時、聞いた時、鳥肌が立つことを意味します。

また、「群(フ)り」の熟語には他にも、群星(プリブシ)、群兄弟(プリチョーデー)、群人衆(プリニンジユ)、群馬(プリンマ)などがあります。

(例文) 我んねー草刈とーる時やがてい まぎさる青虫がちみーたん。うんにーねーいっぺー毛群り立ちやーさんどー。」

(和訳) 私が草刈りをしてた時のことだけど、あわや大きな青虫を捕まえるところだったよ。その時は、大変びっくりして鳥肌が立ったよ。

交通事故 相続 離婚 債務整理

相談して「良かった」という声を多数頂いております!!

当事務所は、企業法務にも力を入れておりますので、経営者の方もお相談ください。

女性秘書が丁寧に対応いたします。

代表社員弁護士 岡野 浩巳

明日のためにできること、今あなたとともに。～

弁護士 岡野法律事務所

はいさい那覇支店【ご予約が必要です】

〒900-0023 沖縄県那覇市楚辺1丁目5番17号 プロフェスビル那覇2階 ☎ 900-0023 沖縄県那覇市楚辺1丁目5番17号 プロフェスビル那覇2階

http://www.okano-hiroshima.jp/naha/ 岡野法律事務所 那覇 検索

ご相談は何度でも無料

※個人のお客様のみとさせていただきます。

55-7840

FreeDial 0120

55-7840

広告